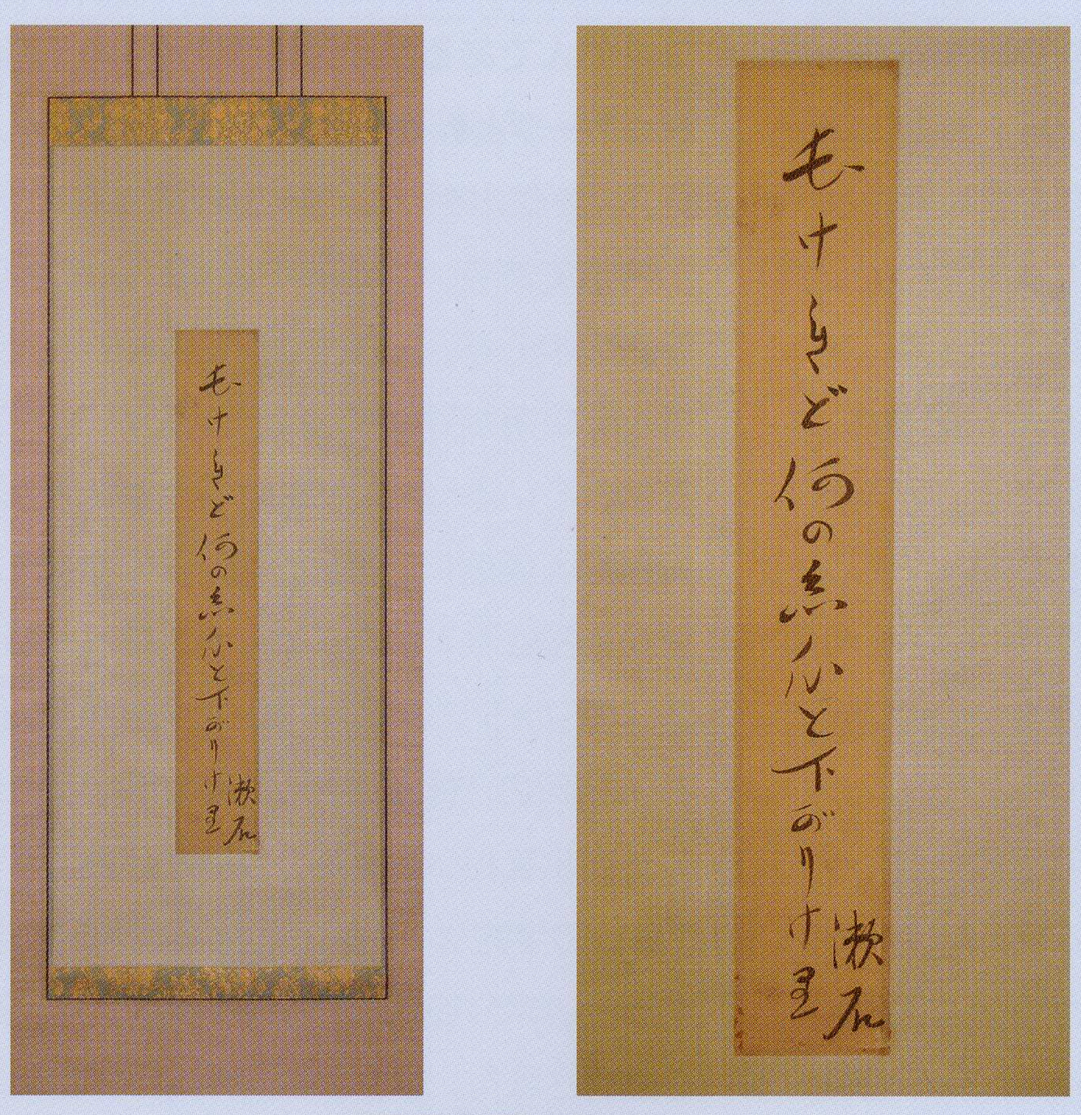
2009（平成21）年6月

図書 quarterly report



「夏目漱石　俳句」

No. 73

二松学舎大学附属図書館 季報

目次

◆2 純粋法学とハンス・ケルゼンのこと
—附属図書館長に就任して—　長谷川　日出世

◆3 身近なことばの文法と歴史　島田　泰子

◆4 鶏・豚、そして人間　白石　まりも

◆5 ハラスメント防止コーナー設置のご案内　改田　明子

◆6 この一冊　大山　徳高

◆7 大学資料展示室　企画展

◆8 講習会
◆オンラインデータベース編

純粋法学とハンス・ケルゼンのこと　―附属図書館長に就任して―

附属図書館長　長谷川　日出世

忘れもしない40年前、私が大学1年の10月のことである。当時通っていた早稲田大学政治経済学部図書室で一冊の大著（「一般国家学」、ハンス・ケルゼン著　清宮四郎訳）に出会った。大変難解な本で、法律学の基礎知識のない当時の私には全くといってよいほど歯が立たなかった。ただどういうわけか、ケルゼンという研究者に強い関心を持ったようである。大学の中央図書館でケルゼンの著作、またそれに関する日本人研究者の著作等を調べてみると、これが相当量にのぼることがわかり、ますます私の好奇心を刺激する結果となった。しかしながら、このことが私の将来までも方向づけてしまおうとは、その頃は全く気づきもしなかった。翌年、ヨーロッパを旅行した際、ケルゼンが教職にあったウィーン大学を訪れる機会があった。ウィーンの中心に位置する同大学はまさに象牙の塔というべき雰囲気を醸し出しており、学問の殿堂にふさわしい威容を誇るものであった。大学構内を散策している時、ケルゼンが吸った空気と同じものに触れているのだと感激したことを、今でも覚えている。

学部卒業後、ケルゼンへの思い止み難く法学部大学院（法哲学専攻）へ進学し、井上茂先生（当時、御茶ノ水大学教授で、早稲田大学に講師で来ておられた）のご指導を仰いだ。大変厳しい先生であられたが、そのお話の中で忘れることのできないものが三つある。第一は研究対象とする学者の原典に当たれ、原典についての解説書、論文は読むなであり、第二は専門以外の文学、芸術に触れるよう、第三は図書館を十分に活用せよ、とのことであった。実際、研究活動に入ってつくづく感心したのは、一流の研究者の教養の深さである。ケルゼンの著作を取り上げても、そこには歴史、文学、芸術等さまざまな分野の知的背景がうかがわれる。また井上先生の名著「法秩序の構造」中でも、研究のための方法論のヒントが夏目漱石の著作にあったことが述べられている。私のケルゼン研究は、井上先生のこのような学的姿勢に少しでも近づければという思いの下に、徐々にではあるが前進することになった。

ハンス・ケルゼンは1881年生まれの法学者（公法、法哲学、国際法等の分野で高い業績を残している）で、1920年代オーストリヤのウィーン大学を中心に活躍し、憲法裁判所の判事も勤めた。ただナチス・ドイツの勃興とともに、ユダヤ人であるがゆえにさまざまな迫害を被り、ケルン、ジュネーブと転々とした後、最後にアメリカでその生涯を終えた。ケルゼンの名を世界的なものとしたのはその学的特徴である。ウィーン当時は、法律学におけるウィーン学派の中心としての彼の下に多くの研究者が集い、日本からもその後学界の指導者となられるような著名な法学者が訪れている。ケルゼンの学説は純粋法学と名づけられ、如何なる価値にもとらわれない科学としての法律学の構築が目指されていた。ケルゼンのヨーロッパの時代は、ナチスのファシズム、ソビエトの共産主義の台頭と同時期であり、当時の法律学の多くがそれぞれのイデオロギー（価値）の正当化を担った理論の展開を目指していた。ケルゼンは、「自分の学説は、ファシズムの側からは共産主義の理論であると、また共産主義の側からはファシズムの理論であると批判された。そうであるからこそ如何に価値的に中立的なものであるかということが分るであろう」と述べる。正義（絶対的価値）などというものはないのであり、人々・国々の（価値の）主張などというものはあくまでも相対的なものである。そうであるからこそお互いの主張（価値）の衝突が起きた場合、相互に相手の主張を尊重しながら話し合いによる解決を図るべきであるとするのが、価値相対主義に基づく民主主義者ケルゼンの主張である。

私の現在の学的確信は上記のケルゼン理論に基づくものであり、その思想は私の全ての思考、価値判断に大きな影響を与えている。40年前の早大図書館でのケルゼンとの出会いが、その後の私の人生の方向を決定づけたといってよい。振り返ってみて、誠に幸いであったと思う。

本年4月に二松学舎大学附属図書館長に就任することとなった。若者の活字離れがいわれるようになって久しい。私の僅かな経験でおこがましいが、図書館は知の宝庫である。二松学舎大学附属図書館の蔵書は、九段・柏両キャンパスを合計すれば、30万冊を上回り、学生諸君の知的要求は十分に満たすことができると思う。君たちの未知との遭遇に期待したい。

身近なことばの文法と歴史

文学部
国文学科 教授　島田　泰子

少し前、新聞の投書欄に、興味深い文章を見かけた。「耳障りな感じする『い』抜きの形容詞」と題した投書で、神奈川県在住の主婦・44歳が、こどもたちの会話でしばしば耳にする、ある表現について難じていた（読売新聞投書欄「気流」2008.10.22）。

投書の主は言う。「はやっ」「おそっ」などという表現を聞くと、「言葉の使い方を知らないのだろうか」と耳障りな印象を受ける…、これらの語尾には本来、「い」がつくはず…、こうした「い」抜きの形容詞が広がると、日本語の豊かな表現が失われてしまう…、特にことばを覚える時期のこどもに向けては、正しく「い」を付けて使うよう気をつけたい…、云々。

言うまでもなく、これは、形容詞の「語幹用法」と呼ばれるものである。語幹とは、活用に際して語形変化を起こす「語尾」に対する部分で、こと形容詞については、語幹の独立性が極めて高く、古代語から現代語に至るまでさまざまに用いられてきた。ある種の感嘆・感慨などを込めて用いられる語幹の単独用法は、古くは上代にも用例を遡り得る、歴史と伝統のある表現方法である。

あなみにく〈痛醜〉　さかしらをすと酒飲まぬ人をよく見れば猿にかも似る　（万葉集　巻三・344）

韻文・散文を問わず多くの使用例が見られ、国文法の教科書にも必ず取り上げられる用法であるが、こういった語幹用法が今日の「はやっ」などとつながるという事実は、一般にはあまり意識されていないらしい。世間では、意外さを伴う豆知識のたぐいなのかも知れず、それを知るのは、日本語の歴史を学ぶ立場の我々に許された「ひそかな愉しみ」のひとつということにもなろうか。

ただ、冒頭の投書のような、むやみにことばを省略する昨今の若者ことばと同一視する見方には、それなりに理由もある。古くから存在する表現でありながら、この手の形容詞語幹用法は、関西圏からメディアを通じて広がった経緯があるらしく、東日本ではいささか耳新しい表現と映るようだ。使用頻度の急激な変化から、はやりことばとの認識もあろう。場面や文脈の偏りなどいわゆる位相的な特性が「規範的でない表現」との印象を支えているであろうことも、十分推測される。

ところで、日常的に注意深く観察していると、近年、特に広告的な表現に、この手の語幹用法が好んで用いられる傾向があることに気付かされる。写真には、看板や商品パッケージでの使用例を示した（撮影筆者）。

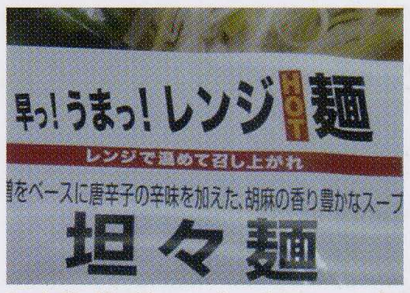
古来この表現が表すのは、話し手の感嘆である。先の万葉集の例のように感動詞（「あな」など）との共起が顕著に観察されるのもその表現性ゆえであるが、現代語においてもなお、冷静な判断文（恒常的な事態、比較構文など）での使用は、意味的にそぐわない。さらに言えば、この表現の使用には「当事者」性が必須となる。

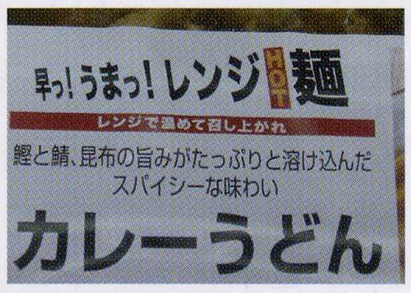
写真の例で言うならば、「旨っ!!」「安っ!!!」「早っ!」というのは、ラーメンなり商品なりを口にした客のセリフ、カラオケの料金設定を目にした客の発することばである。あまりのおいしさ・安さ・早さに感動した客の側が、思わず口にする表現なのであって、商品やサービスを提供する側が自らを評して使う表現では、本来ない。

看板やパッケージなどは、店側による旨さ・安さのアピールであるが、ここでは、「あなた（客）はきっと驚いて思わずこう叫ぶはずだ」という、ある種の「評価の先取り」が成り立っている。広告表現という、これまた特異な位相に今は限られるものの、こういった用法での多用は厳然たる事実である。この表現類型がまた新たな歴史を紡ごうとしている現場に今われわれは立ち会い、変化の過程を目の当たりにしているのかも知れない。

写真①　柏市内ラーメン屋看板

写真②　川越市内カラオケ店看板





写真③・④　某コンビニ店頭にて。商品パッケージでの用例

鶏・豚、そして人間

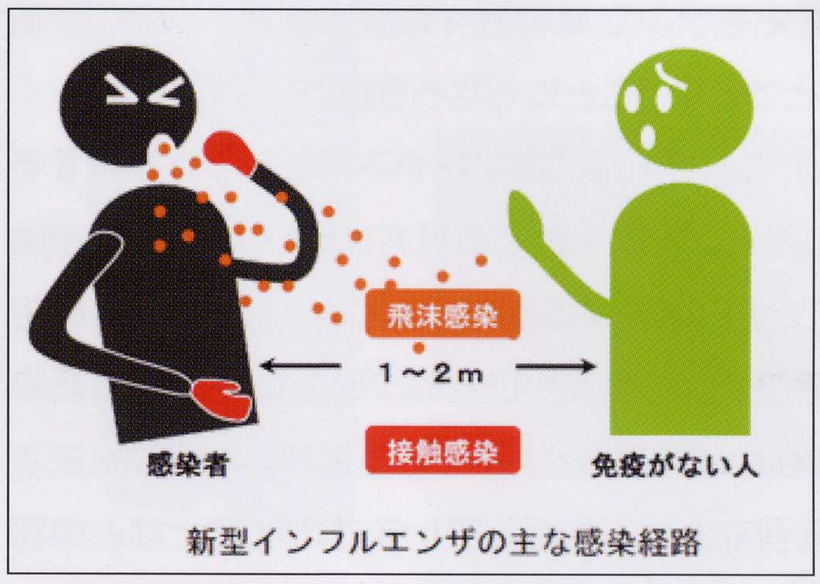
国際政治経済学部
国際政治経済学科 教授　白石　まりも

ブタといえば豚カツ、トリといえば焼き鳥かから揚げを思い浮かべるのですが、昨今はブタ・トリと続くとインフルエンザを連想する人が多いのではないでしょうか。

人類は長い歴史の中で、ウィルスとの戦いを繰り返してきました。そして勝利しては免疫を手にして、今日のような長い寿命となっていったのです。今では何と言う事は無い、はしか・水ぼうそうや、戦争で多くの犠牲者を出したマラリアやチフスは、その昔は死に至る病気でした。現在、癌・エイズや風邪・水虫などは完治が困難な病気ですが、それは根治する治療薬が無いからです。特にエイズはその起源が猿だとされており、人から人へ血液や体液を介して感染して、完治薬の無い現在その最後は死です。日本にエイズという病気が入って来た時の事を覚えています。不倫というテーマがトレンデイードラマに取り上げられて、不倫という夫婦関係以外の男女関係が堂々と肯定されていた時代のように思われました。そこへエイズというウィルスが、不特定多数の関係をもつ男女に警鐘をならすべく登場したのです。私は、HIVウィルスの出現は人類に対して、何らかの意志を感じました。そして次は狂牛病という、スクレイピーという脳疾患で死んだ羊の肉を飼料にした牛の肉を食べるという行為で感染し死んでしまうという病気も現われて、牛肉はしばらくの間、食卓や外食産業から消えたのです。しかし、エイズも狂牛病も人の行為（血液、体液の接触・食べる等）さえ行わなければ、感染はあり得ないのです。

しかし、インフルエンザは鳥や豚のウィルスが人に感染し、それがまた人から人へと感染するという想像もつかなかった感染ルートを経て、防ぎにくい飛沫感染が世界規模で拡大してパンデミックという事態を招いています。そして気温の低くなる秋口から、現在のウィルスより毒性が強いウィルスが「第2波」として来ることが懸念されています。新型と季節型の流行の度合いが予想は、ワクチンの製造個数にも関わってきます。インフルエンザワクチンは1937年、有精卵で増殖が発見され製造可能となりました。つまり、鶏のインフルエンザウィルスに対抗するのに、鶏の卵を使用するのです。

今、地球では様々な‘‘不思議“が起きています。本来は交配しない西洋タンポポと在来種とが交配して、茎が異常に太い奇形のタンポポをテレビで見ました。今世紀、4度目のパンデミックですが、5度目はどのようなウィルスが人類にどんな警鐘を鳴らすのでしょうか。人類は、環境問題や戦争、核など沢山の問題を抱えています。それは地球規模の問題です。豚・鳥・牛・猿、次はどんな動物が地球の意志を伝えるメッセンジャーとして、人類に何を伝えるつもりなのでしょうか。



新型インフルエンザの主な感染経路

「厚生労働省ホームページ」から

ハラスメント防止コーナー設置のご案内

文学部
教職課程 教授　改田　明子

本学では、だれもが安心して学習、研究、就労することのできる環境の実現を目指して、ハラスメント防止アピール委員会が活動しています。このたび、啓発活動の一環として、附属図書館のご協力により、九段キャンパス附属図書館地下1階閲覧室にハラスメント防止コーナーを設けることができました。ハラスメント防止のために役立つ資料をそろえていますので、ぜひご利用ください。貸し出しもしていますので、希望の資料を受付までお持ちください。

さて、この機会に、ハラスメント防止とハラスメント防止コーナーの資料の活用についてご案内させていただきます。

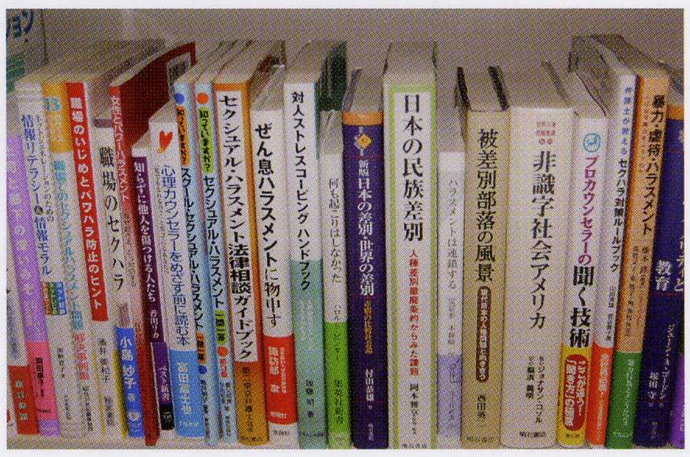
ご承知のとおり、ハラスメントは、個人の能力の発揮を妨げる不当な行為であり、そのため被害者は、学習、研究、就労などの面で不利益をこうむります。具体的には、出身地などの理由で十分な研究指導を受けることができない、性別により差別的な待遇を受ける、などのことがあげられます。そのような問題の発生は、当事者はもちろんのこと、大学組織の機能も著しく低下させてしまいます。深刻化しない段階での早期解消が望まれます。とはいうものの、実際には、このようなハラスメント行為は、被害者と加害者の間の力関係を背景に行われるため、被害者は不快で理不尽だと感じていても直接加害者にやめてほしいと伝えることが難しいものです。一方、加害者の側は被害者の気持ちがわからず、自分の行為が相手を不当に傷つけていると認識できない場合がほとんどです。このような事情で、当事者間の直接のコミュニケーションによって問題を解消することがむずかしいのです。こんな状況の改善のため、アピール委員会では啓発活動を行っています。

ハラスメントは、発生を未然に防ぎ、また発生したとしても深刻なレベルに至る前に適切に解消することが大切です。そのためには、まず、誰もがハラスメントをしないという意識を持つことが求められています。大学は、10代から年配者まで幅広い世代の人々が生活する場です。また、国内のさまざまな地域はもちろん世界各国の人々が、さまざまな文化的背景をもって生活しています。個人の背景が異なれば、人間関係についての感じ方もさまざまです。自分とは異なる感じ方をする人が、どのような行為を不快と感じるかは誰にも簡単にはわからないものでしょう。残念なことに、相手のためによかれと思っての行為、親しみの表現としての行為、当たり前のことだと思う行為が、相手には不快・不利益でしかないということも起こります。かかわりの中で期待したような反応が返ってこないときは、相手の気持ちを一言確認するのがよいかもしれません。それだけで深刻な問題を回避できることもあります。また、ハラスメント防止コーナーに備えた資料には、セクシャルハラスメントはもちろんのことモラルハラスメント、アルコールハラスメントなど、さまざまな領域で起こりうるハラスメントについて知ることができます。自分の行為が理不尽に人を傷つけていないか、自己点検のためにぜひ参考にしてください。

また、不幸にも自分が被害を受けた場合。資料により、どのような行為がハラスメントとして社会的に認知されているのか、法的な対応を求める場合どのような結果が期待できるか、などについて、情報を得ることができます。さらに、力関係の中では、自分が不当に扱われてもハラスメントだと気づくこと自体が難しい場合もあります。なんとなく居心地が悪いと感じているときなど、自分の経験の意味を考える参考に資料をご利用ください。

さらに、ハラスメントは人間関係の問題です。ちょっとしたコミュニケーションのすれ違いを大きな問題に発展させないために、人間関係スキルについての参考になる資料もそろえました。依頼の断りや注意など、言いにくいことを相手に配慮しながら言うための自己表現や、怒りのコントロールなどについて、考え、実践するための資料です。ハラスメント問題だけでなく日常的な人間関係を振り返るためにも参考にしていただければと思います。

なお、ご自身でハラスメント被害ではないかと感じる具体的な体験があれば、備え付けのパンフレットをご覧の上、どうぞハラスメント相談をご利用ください。秘密を厳守し、相談者の意向を尊重した上で、必要な対応をとってゆきます。よりよい大学環境の実現のために、ご協力をよろしくお願いいたします。



この一冊

理事長　**大山　徳高**

編集者から表題を与えられ大変悩んでいます。貧しい時代の高校生でしたので、楽しみと言えば、小説を読むことぐらいしかありませんでしたが、特別の一冊ということが言い出せない状態なのです。

中学生1年時に裕福な家庭の級友がいて、彼は、当時としては珍しくたくさんの本を持っていました。探偵物、講談本、伝記物等、週2冊は借りたでしょうか。床の中で明け方まで読んでいました。シャーロックホームズ、宮本武蔵、塚原卜伝、石川啄木等々、次々借り読み漁っていました。物質に乏しく厳しい時代でしたが、読書に喜びを見出していましたので、時代の辛さを半減させることができました。

日本の名作と言われる作品、外国文学も一通りは高校時代に目を通していました。多くの知識と感動とを読書によって得られた私にとって、すべてがこの一冊ということになります。それでは表題に応えることになりませんので、「この一冊」に悩んでいるわけです。また、最近読書量も減り、これといった書物に巡り会っていないせいでもあります。

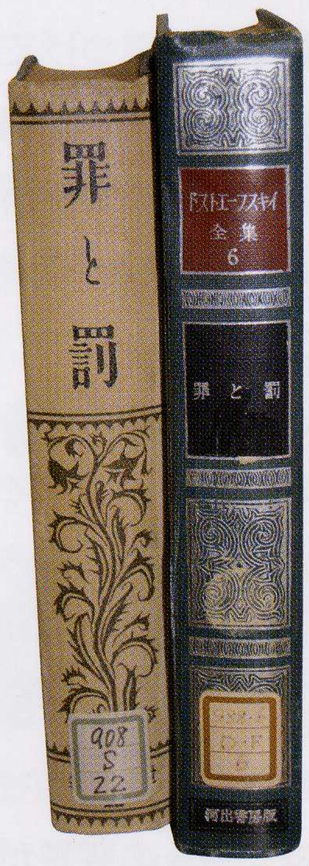
原稿依頼を受けて日数もたった6月初め、4時前に目を覚まし再び眠りに入れず、まどろむ床の中で、遠くで鳴くホトトギスの声をおぼろげに聞きながら、宿題のことを思い浮かべていました。すると、高校教員の時のある事件が甦ってきました。

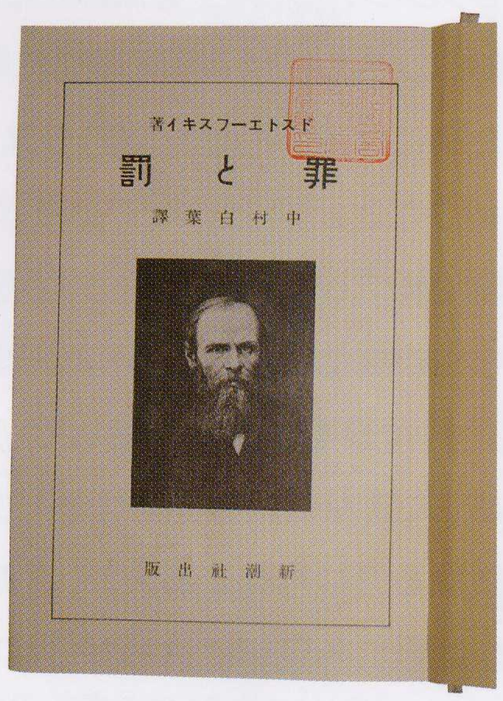
それは、担任をしているクラスの生徒同士の喧嘩でした。一人は文武両道に優れ、正義感あふれた優等生でした。対する一人は身体は大きいがスポーツも勉強も特に得意ということもない普通の高校生でした。ささいなことから言い争いになったようで、授業も終わり、私がホームルームのために教室に入ると、暴力行為に至らんとする寸前でした。担任である私の目の前で、相手の存在さえ否定する聞き捨てならぬ言葉に、私はつい、「ドストエフスキーの『罪と罰』を読みなさい」と口走ってしまったのです。なぜ突然、それが口を突いて出てきたのか今でも理解ができていません。この作品は、どちらかといえば日本の文学作品に慣れ親しんでいた私にとって、木造建築と大理石の建築物との違いを感じさせる、大変に重い作品であるという認識はありましたが、それ以上に考えようとはしていませんでした。ただ、人間の悲しい業を強く印象付けられたことは確かです。

30年も昔のことでしたが、改めて当時のことを振り返り、なぜ『罪と罰』を優等生に投げかけたのか、なぜ遠い過去のことが蘇ってきたのかの不思議を思っています。近頃の世の中の在りようで私の心が病んでいるせいかも知れません。

長い人間の歴史は、戦争をはじめとする殺戮の歴史といっていいほど人と人との殺し合いが何と多いことか。近年は情報網の発達もあり、痛ましいニュースの洪水に晒されています。最近とみに戦争以外でも身近なところで惨い殺人が多発しているように思いますが、私の錯覚でしょうか。19世紀中ごろ、ドストエフスキーの提出した課題を21世紀の今日、解決するどころかその途にもつかず、処方箋を持たずさ迷い続ける人類、病はさらに悪化の一途を辿っているように思います。悲惨な事件を視聴するたびに心を痛めています。

病が高じて幻覚を見ている今の私にとって、『罪と罰』は、社会性に目覚めて以来の重い課題であり、悩みの根源でもあります。私にとって本当の意味での「この一冊」と言えるのは、『罪と罰』を超えたもののように考えています。また、そのような作品が生まれてくることを心待ちにしており、人類は必ず生み出すものと信じています。





大学資料展示室

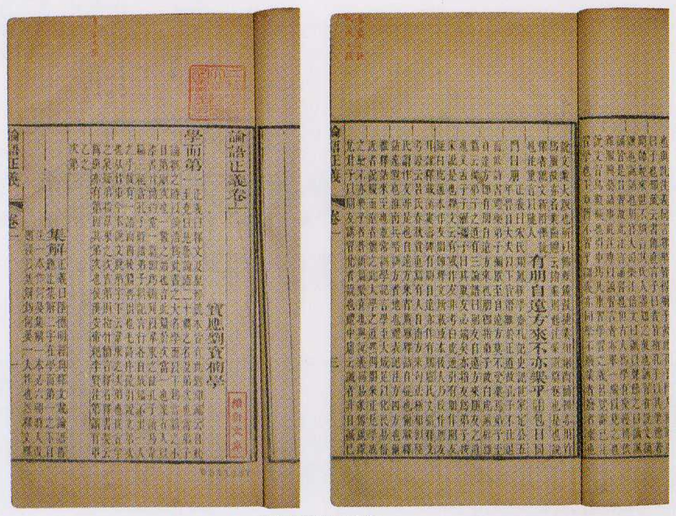
企画展　昨年度から実施している月別企画展は、4月の「和本への誘い」に続き、5・6月は「漢籍への誘い」「近・現代の筆跡」と題して開催された。
なお、7・8月は「創立者・三島中洲」展を開催予定である。

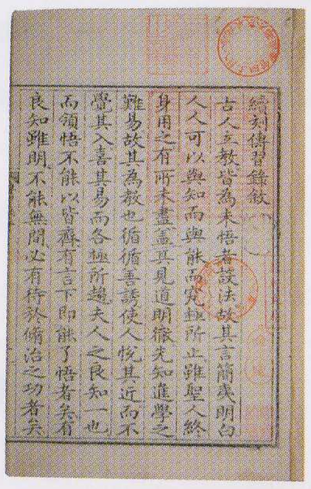
5月「漢籍への誘い」

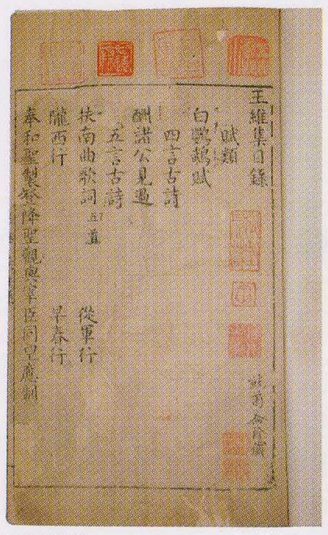
二松学舎大学大学資料展示室
〔平成二一年　五月企画展〕

漢籍への誘い

○期間　五月一九日（火）～五月三一日（日）
○時間　一〇時～一六時
○閉館　日曜・祝日
※ 但し、三一日（日）は開館


論語正義


伝習録

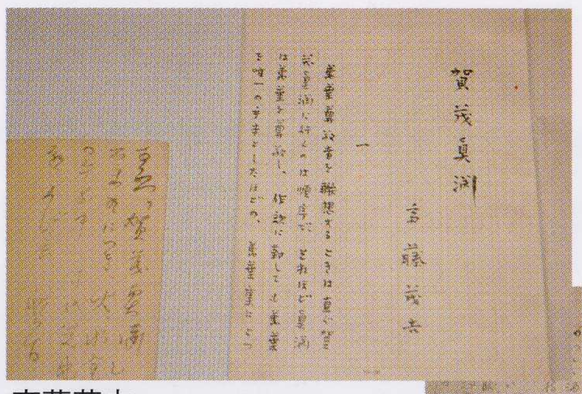

王維集

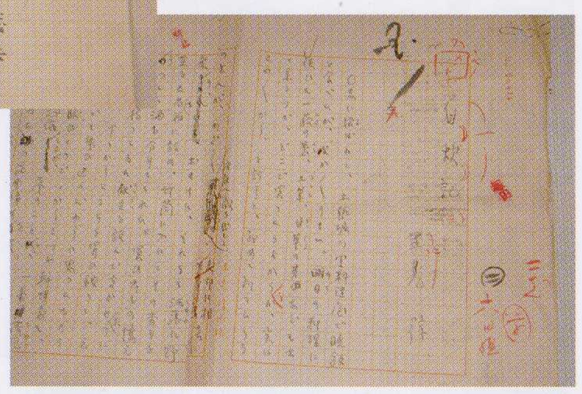
6月「近・現代の筆跡」

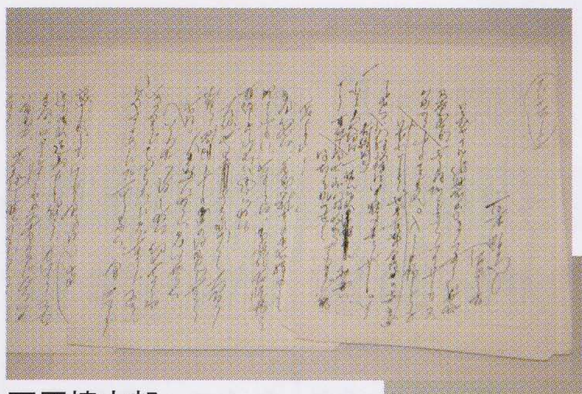
二松学舎大学大学資料展示室
〔平成二一年　六月企画展〕

近・現代の筆跡

○期間　六月二三日（火）～七月四日（土）
○時間　一〇時～一六時
○閉館　日曜・祝日


斎藤茂吉


里見弴

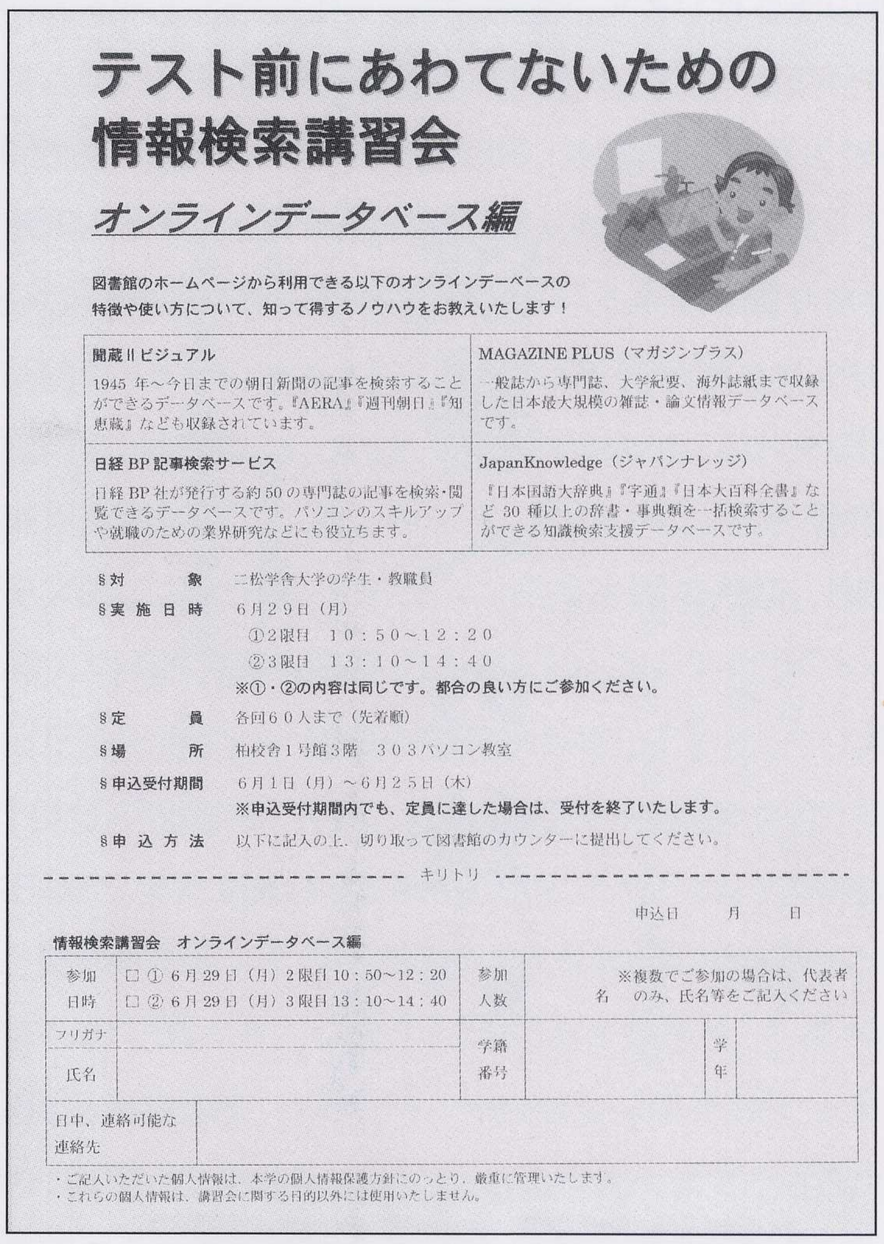

石原慎太郎

夏目漱石

檀一雄

講習会 テスト前にあわてないための情報検索講習会

柏校舎図書館では、特に1・2年生を対象に、情報検索のための講習会を開催しました。
今回は「オンラインデータベース編」で、図書館のホームページから利用できるオンラインデータベースの特徴や使い方について等、資料調査に役立つ検索の基礎や、知っていると便利な検索のコツを、学習しました。



テスト前にあわてないための
情報検索講習会

オンラインデータベース編

図書館のホームページから利用できる以下のオンラインデーベースの特徴や使い方について、知って得するノウハウをお教えいたします！

聞蔵Ⅱビジュアル 1945 年～今日までの朝日新聞の記事を検索することができるデータベースです。『AERA』『週刊朝日』『知恵蔵』なども収録されています。	**MAGAZINE PLUS（マガジンプラス）** 一般誌から専門誌、大学紀要、海外誌紙まで収録した日本最大規模の雑誌・論文情報データベースです。
日経 BP 記事検索サービス 日経 BP 社が発行する約 50 の専門誌の記事を検索・閲覧できるデータベースです。パソコンのスキルアップや就職のための業界研究などにも役立ちます。	**JapanKnowledge（ジャパンナレッジ）** 『日本国語大辞典』『字通』『日本大百科全書』など 30 種以上の辞書・事典類を一括検索することができる知識検索支援データベースです。

§対　　象　二松学舎大学の学生・教職員
§実施日時　6月29日（月）
①2限目　10：50～12：20
②3限目　13：10～14：40
※①・②の内容は同じです。都合の良い方にご参加ください。
§定　　員　各回60人まで（先着順）
§場　　所　柏校舎1号館3階　303パソコン教室
§申込受付期間　6月1日（月）～6月25日（木）
※申込受付期間内でも、定員に達した場合は、受付を終了いたします。
§申込方法　以下に記入の上、切り取って図書館のカウンターに提出してください。

キリトリ

申込日　　月　　日

情報検索講習会　オンラインデータベース編

参加日時	□ ① 6月29日（月）2限目 10：50～12：20 □ ② 6月29日（月）3限目 13：10～14：40	参加人数	※複数でご参加の場合は、代表者名のみ、氏名等をご記入ください
フリガナ 氏名		学籍番号	学年
日中、連絡可能な連絡先			

・ご記入いただいた個人情報は、本学の個人情報保護方針にのっとり、厳重に管理いたします。
・これらの個人情報は、講習会に関する目的以外には使用いたしません。

表紙資料解説

夏目漱石　俳句

「長けれど何の糸瓜とさがりけり　漱石」

明治29年作。諺「何の糸瓜の皮」（何とも思わない、少しも価値がない意）を踏まえた句。
この句に対し、正岡子規は「◎」の評点を与えている。『漱石全集』所収。

開館時間

	平日（授業期）	平日（休業期）	土曜日
九段	9:00～21:30	9:00～16:20	9:00～16:20
柏	9:15～18:55	9:15～16:00	9:15～16:00

休館日

◇日曜日・国民の休日・祝日
◇創立記念日（10月10日）
◇年末年始・夏期休業中・学年末休業中の一定期間

二松学舎大学附属図書館
季　報
第73号

発行日　平成21（2009）年6月30日
発　行　二松学舎大学附属図書館
九段校舎図書館　〒102－8336　東京都千代田区三番町6-16
電話:03-3263-6364
柏校舎図書館　〒277－8585　千葉県柏市大井2590
電話:04-7191-8758
印刷所　株式会社 サンセイ
電話:03-5614-2515